



第1章 誰もが安心して暮らし続けられる
地域・社会づくり

第3章 地球温暖化対策の推進

第5章 貧困をなくし子どもたちを
支援する活動

第7章 多様な人々がともに働き続けられる
組織づくり

第2章 持続可能な生産と消費のために

第4章 すべての人に健康と福祉を

第6章 核兵器廃絶と世界平和の実現を
めざす活動

Contents 〈目次〉

02	ごあいさつ
03	いわて生協の事業概要
04	コープ SDG s 行動宣言
05	特別報告 災害支援の取り組み
	第1章 誰もが安心して暮らし続けられる地域・社会づくり
07	◎店舗事業 ◎宅配事業
08	◎子育て層の暮らしサポート
09	◎シニア世代の暮らしサポート
10	◎保障事業 ◎葬祭事業 ◎灯油事業 ◎南昌荘
	第2章 持続可能な生産と消費のために
11	◎エシカル消費の取り組み コープ商品、アイコープ商品、産直
14	◎リサイクル・廃棄物の削減
	第3章 地球温暖化対策の推進
15	◎CO ₂ 排出量削減の取り組み
16	◎原発に依存しない事業と暮らし
	第4章 すべての人に健康と福祉を
17	◎夕食宅配サービス ◎福祉事業
18	◎組合員の地域でのささえあい活動
	第5章 貧困をなく子どもたちを支援する活動
19	◎フードドライブ ◎子ども食堂支援 ◎ユニセフ募金
	第6章 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動
20	◎ピースアクション ◎平和のつどい ◎組合員の戦争体験を伝える
	第7章 多様な人々がともに働き続けられる組織づくり
21	◎男性職員の育休取得推進 ◎障がい者雇用の推進 ◎奨学金返還支援制度

ごあいさつ

「ともにつくる 暮らしと未来」をめざして



いわて生活協同組合
理事長

阿部 慎二

昨年は、物価上昇が続き暮らしのきびしさがいっそう増す中、世界では戦争や紛争の終結が見通せず、平和と暮らしの不安が広がった1年でした。こうした中、いわて生協では「2030年ビジョン」とその実現に向けた「第11次中期計画」の初年度として、暮らしを支える様々な事業をすすめてまいりました。

きびしい家計を応援する取り組みを始め、ベルフ青山とコープ高松のリニューアル、コープステーションの2店舗への増設、店舗「キッズカード」など子育て層のサポートを拡充しました。また、フードドライブや子ども食堂支援など、地域でお困りの方を支える活動がさらに広がりました。CO₂排出量は事業を拡大する中でも基準年比60%以上の削減を達成しており、国や岩手県の削減目標を大幅に上回る取り組みを実現しています。

昨年は日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。ともに核兵器廃絶を訴えてきた生協にとっても喜ばしいことである一方で、この受賞は核兵器使用の危機が迫っていることの表れとも言えます。

少子高齢化や過疎化の進行、世界での異常気象や自然災害の増加など、予測できない大きな変化の中、私たちをとりまく社会・経済状況は大変なきびしさが続くことが予想されます。

今年は、国連が定めた「国際協同組合年」です。国連は、協同組合がさまざまな分野でSDGsに貢献していると評価しており、「国際協同組合年」は協同組合の価値を広げる取り組みです。

いわて生協では「2030年ビジョン」で『ともにつくる 暮らしと未来』を掲げ、めざしています。協同組合の一員として組合員の協同の力を寄せ合い、暮らしを支える事業と活動をすすめるとともに、SDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし取り組んでまいります。

みなさまからのご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後も一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

協同組合について

【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

編集方針

この報告書は、いわて生協が基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。いわて生協「2030年ビジョン」で掲げる「ともにつくる暮らしと未来」の実現に向けた取り組みを、活動の一部ではありますがお伝えします。

対象期間

2024年度（2024年3月21日～2025年3月20日）の事業・活動を中心に報告していますが、一部2025年度の情報や将来の目標も含みます。

発行 2025年6月

HP アドレス <https://www.iwate.coop> 本報告書はホームページに掲載しています。

お問い合わせ先

いわて生活協同組合 〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220番地3 TEL.019-687-1321（代）

いわて生協の事業概要

▶ 1990年「いわて生協」が誕生

組合員のくらしや地域にさらに役立つ生協をめざし、県内5つの地域生協と岩手県学校生協宮古地域の合併・合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生しました。



▶ 2024年度の事業・決算概要

2024年度は「第11次中期計画」の初年度として、きびしい家計を応援する取り組みをはじめ、ベルフ青山のリニューアル、コープステーションの拡大、店舗での「キッズカード」や「はじめてCLUB会員デー」など子育て層へのサポートを拡大しました。

組合員は5千人増えて29万2千人に、出資金は112億円を超えました。経常剰余金は9億9千万円と予算を上回って確保することができました。

いわて生協のプロフィール

※すべて2024年度末(2025年3月20日)の数字です。

- 組合員数..... 29万2,156人
- 出資金..... 112億2,758万円
- 世帯加入数..... 54.6%
- 供給高..... 476億8,982万円
- 宅配利用人数..... 8万182人
- 常勤者(職員)数..... 2,114人

◆店舗事業(16店舗)



- ・盛岡市(6店舗)
- ・北上市
- ・滝沢市
- ・奥州市
- ・八幡平市
- ・一関市
- ・花巻市
- ・宮古市(4店舗)

◆宅配事業(9センター)



- ・滝沢市
- ・奥州市
- ・宮古市
- ・矢巾町
- ・一戸町
- ・金石市
- ・北上市
- ・久慈市
- ・大船渡市

◆葬祭事業(14館)



- ・盛岡市(5館)
- ・岩泉町
- ・滝沢市
- ・宮古市(3館)
- ・矢巾町
- ・金石市
- ・奥州市(2館)

◆保障事業(1共済センター)

◆福祉事業(2事業所)

◆エネルギー事業

関連会社／(株)コープ東北保険センターいわて支店

▶ 数字で見るあゆみ

■組合員数

1990年度 (誕生時)	8万8,166人
2000年度	13万7,567人
2010年度	19万9,279人
2015年度	23万3,208人
2020年度	26万9,134人
2024年度	29万2,156人

■出資金

1990年度 (誕生時)	13.1億円
2000年度	36.4億円
2010年度	69.4億円
2015年度	82.5億円
2020年度	99.3億円
2024年度	112.2億円

■供給高

1990年度 (誕生時)	184.1億円
2000年度	372.9億円
2010年度	352.8億円
2015年度	386.2億円
2020年度	446.3億円
2024年度	476.8億円

コープSDGs 行動宣言



SDGsは、2015年に国連で採択された「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の略称で、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成をめざす共通の目標です。貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼びかけており、生協がめざす方向性と重なりあっています。

私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

〈関連するSDGsの主たる目標〉

12

つくる責任
つかう責任

目標12(つくる責任、つかう責任)
持続可能な消費と生産の
パターンを確保する

〈関連するSDGsの目標〉



地球温暖化対策を推進し、
再生可能エネルギーを利用・普及します

〈関連するSDGsの主たる目標〉

7

エネルギーを
安全に
利用できるように

目標7(エネルギー)
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な
近代的エネルギーへのアクセスを確保する

13

気候変動に
具体的な対策を

目標13(気候変動)
気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる

核兵器廃絶と世界平和の実現を
めざす活動を推進します

〈関連するSDGsの主たる目標〉

16

平和と公正を
すべての人に

目標16(平和)
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを
提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明
責任のある包摂的な制度を構築する

〈関連するSDGsの目標〉



誰もが安心してくらし続けられる
地域社会づくりに参加します

〈関連するSDGsの主たる目標〉

11

住み続けられる
まちづくりを

目標11(持続可能な都市)
都市を包摂的、安全、レジリエント
かつ持続可能にする

〈関連するSDGsの目標〉



健康づくりの取り組みを広げ、
福祉事業・助け合い活動を進めます

〈関連するSDGsの主たる目標〉

3

すべての人に
健康と福祉を

目標3(保健)
あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

〈関連するSDGsの目標〉



世界から飢餓や貧困をなくし、
子どもたちを支援する活動を推進します

〈関連するSDGsの主たる目標〉

1

貧困を
なくそう

目標1(貧困をなくそう)
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を
終わらせる

〈関連するSDGsの目標〉



ジェンダー平等(男女平等)と多様な
人々が共生できる社会づくりを推進します

〈関連するSDGsの主たる目標〉

5

ジェンダー平等を
実現しよう

目標5(ジェンダー)
ジェンダー平等を達成し、すべての女性
及び女兒の能力強化を行う

〈関連するSDGsの目標〉



特別報告

災害支援の取り組み

東日本大震災でいただいた支援への恩返しの気持ちも込めて、能登半島への支援を継続しています。
また、大船渡市林野火災に対しても支援を行いました。



大船渡市林野火災

一日も早い復興を願って

▶ 大船渡市林野火災義援金募金

火災で被災された方々を支援するため、募金活動を行いました。店舗・宅配に加え、各地域の組合員が13か所で15回募金を呼びかけました。1か月の取り組みに多くの募金が寄せられ、全額を義援金として大船渡市に贈呈しました。

岩手県生協連では全国の生協に募金支援を呼びかけ、7月に贈呈する予定です。

贈呈額 **2,500万円**



避難所のくらしをサポート

▶ 避難所への物資・食の支援

今回の火災で開設されたすべての避難所を職員が訪問し、飲料などの物資をお届けしながら支援の要望を伺いました。要望にそって避難所に物資や食品をお届けしたほか、炊き出しを4か所の避難所で実施しました。

炊き出しには職員や地域の組合員が参加。さらに2社(株)戸田久、(株)及兵)より材料の支援をいただきました。

炊き出し **4か所で390食を提供**



これからも寄り添いながら

▶ 被災地域のお見舞い訪問活動

避難指示解除後、被災地域の組合員へのお見舞い訪問活動を行いました。宅配センター職員が対象世帯を1件1件訪問。お見舞い品をお届けしながら困りごとを伺い、被害にあわれた方にはコープ共済災害お見舞い金制度をご案内しました。「被害と避難の疲れで心を痛めていたが、寄り添ってくれてありがたい」と、感謝の声をいただきました。

お見舞訪問活動 **844件**



能登半島地震・豪雨災害

震災支援への恩返しの気持ちもこめて

▶ 能登半島地震・豪雨災害 2回の募金活動

2024年1月の地震、また9月の豪雨災害を受けて、東日本大震災でいただいた支援の恩返しの気持ちもこめて募金活動に取り組みました。募金は全額日本生協連へ送りました。日本生協連には全国から17億5千万円を超える募金が寄せられ、被災した石川県・富山県・新潟県への義援金、また被災地支援活動を支える支援金として活用されています。

募金額 **3,537万4,201円** (いわて生協分)



「生協」のつながりで取り組む

▶ 全国の生協とともに職員派遣・物資支援

能登半島被災地の支援活動は、全国の生協とともに取り組んでいます。日本生協連による穴水町ボランティアセンター運営支援やボランティア活動に、職員4人を派遣しました。また、ボランティアセンターに「水やお茶はあるが、スポーツドリンクがない」との声を受け、コープいしかわでスポーツドリンクを購入して贈りました。現地の要望や要請にそって、さまざまな人的・物的支援を継続しています。



ほっとできる時間を

▶ 東北の生協で仮設住宅サロン活動

東北の生協が協力して、能登の支援活動「みんなのサロン」を昨年12月から行っています。穴水町社会福祉協議会にご協力いただき、これまでに穴水町の仮設団地3か所へ職員と組合員を派遣し、食事会やお茶のみ会を開催しました。東北の郷土料理やお茶菓子を楽しみながら、おしゃべりしてほっとできる時間をすごしていただきました。この活動は2025年度も4回行う計画です。



第1章

誰もが安心して暮らし続けられる
地域・社会づくり

子育て層やシニア世代をはじめ、だれもが安心して暮らし続けられるように、
多彩な事業で取り組みをすすめています。



店舗事業

安全・安心な暮らしを支える

▶ きびしい家計を応援する店舗事業

岩手県内に16店舗を運営しています。全国、東北の生協連
家計応援企画「コープくらし応援全国キャンペーン」「コープ商
品フェア」「家計応援値下げ」などに取り組み、組合員の家計を
応援しました。全店で強化している「夕市」では、できたてで鮮
度のいい商品、簡便商品の品ぞろえを充実。仕事帰りでも満
足してもらえる売り場づくりに取り組み、組合員から好評です。

2024年12月にベルフ青山、2025年3月にコープ高松(盛
岡市)をリニューアルしました。地域の状況にあわせて売り場や
品ぞろえを大きく変更し、冷凍食品の充実や「魚屋の惣菜」な
ど新たな売り場を導入しました。

こうした取り組みの結果、2024年度も1万人を超える組合
員が新たに加入しました。

店舗来店客数 **930万4,621人** (前年比102%)



宅配事業

県内どこでも毎週4千品目のお買い物

▶ くらしを見守る宅配事業

「週に1度」「決まった曜日」「決まった時間」に、ご注文いた
だいた商品を組合員のお宅へお届けする宅配。毎週約4千品
目をカタログでご案内しており、県内どこに暮らしていても買
い物を楽しむことができます。

「自宅に届く」以外の利用方法として、「コープステーション」
を5店舗に開設しています。組合員がコープステーションのあ
る店舗に行き、宅配の商品を受け取りながら店舗での買い物
も楽しむ利用スタイルです。利用者は1千人を超えています。

宅配利用者数 **8万182人** (前年比100%)



子育て層のくらしサポート

親子での買い物を応援

▶ キッズカード

家族での買い物を楽めるように、全店で「キッズカード」を
2024年度から行っています。対象は組合員のお子さん(小学
6年生まで)。1回のお買い物ごとにシールが1枚もらえ、シー
ルが貯まるとお好きな景品と交換することができます。キッズ
カードをきっかけに、お子さんがいっしょに買い物に来てくれる
ようになったという声が寄せられています。

キッズカード 景品交換枚数 **5万枚** (2024年度)



子育て家族を応援

▶ 子育てサポート「はじめてCLUB」

はじめてCLUBは、店舗「はじめてCLUB会員デー5%引き」
や宅配「個配配達手数料2年間無料」など、あらゆる事業の
サービスで子育て中のご家庭をサポートする制度です。いわて
生協組合員で4歳未満のお子さんがあるご家庭が入会でき、
お子さんが6歳の誕生日を迎えるまでサービスが適用されま
す。

はじめてCLUB会員 **1万994人** (前年比132%)



おむつと安心をお届け

▶ 一関市「あんしんおむつ宅配便」

一関市の乳児見守り訪問事業「あんしんおむつ宅配便」が
始まり、2024年12月希望者宅への配達が始まりました。
いわて生協はこの事業を受託。子育て経験のある専任職員が
紙おむつをお届けしながら親子を見守り、子育てでの困りごと
や悩みごとの相談を受け付け、一関市につないでいます。

あんしんおむつ宅配便お届け **278人** (2024年度)



シニア世代の暮らしサポート

定期配達でくらしの見守り

▶ 高齢者見守り活動

岩手県内全市町村と「高齢者見守り協定」を締結し、宅配や夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に見守り活動を2013年から行っています。配達時に気になることや異変があった場合、自治体の指定窓口へ連絡します。

2024年度から東北の生協での見守り事例を共有していることで、担当者の意識が向上し対応件数も増えています。

見守り活動対応件数 **50件** (前年比172%)



店舗と地域を往復運行

▶ 無料お買い物バス

いわて生協の店舗と地域を結ぶバスを、盛岡と宮古で定期運行しています。乗車は無料、どなたでもご利用いただけます。

盛岡地域では、買い物環境の変化や組合員からの要望にそって、運行コースや停留所、お買い物時間などを見直しました。その結果、1コースあたりの乗車人数が増えています。

無料お買い物バス利用人数 **2万3,908人** (前年比104%)



店舗での買い物をサポート

▶ ゆっくりレジ(ベルフまつぞの)

▶ スローショッピング(マリンコープドラ)

あわてずにゆっくり会計ができる「ゆっくりレジ」を、ベルフまつぞのでスタートしました。代金の支払いに時間がかかっても、あせらずに会計ができるように設けた専用レジです。

マリンコープドラでは、宮古市と協力して毎月1回「スローショッピング」をスタートしています。



買い物が不便な地域のくらしをサポート

▶ 移動店舗「にこちゃん号」

東日本大震災の被災地支援として、2012年にスタートしました。被災地の状況や要望にそって運行場所などを見直しながら、2台がマリンコープドラを拠点に宮古市以南の沿岸6市町の災害公営住宅など46か所に週1～3回運行しています。

宅配とともに、買い物が不便な地域のくらしを支えています。

移動店舗利用人数 **4万1,178人** (前年比93%)



くらしをサポートする事業

全国の組合員の「たすけあい」

▶ 保障のコープ商品でくらしの安心を 保障事業

コープ共済は、全国の生協組合員のたすけあいの制度として、手ごろな掛金で充実の保障を実現した「保障のコープ商品」です。店舗や宅配の「いつもの生協職員」がコープ共済の窓口として、請求漏れがないように共済金請求の声掛けを行っています。

共済金のお支払い **1万4千件 10億円** (前年比93%)



安心できるお見送りを

▶ 県内14のセリオホールを運営 葬祭事業

葬祭事業は、組合員の「人生最後の儀式は自分たちが作る生協で」「納得できる適正価格で」という願いから、1993年に開始した事業です。岩手県内14のセリオホール(葬祭会館)ではご遺族に寄り添い葬儀をお手伝いするほか、事前相談や学習会で組合員の疑問や悩みに応えています。

施行件数 **1,643件** (前年比97%)



県内灯油のプライスリーダー

▶ 冬のくらしを支える灯油事業

岩手の冬に灯油は欠かせません。いわて生協の配達灯油は、岩手県内供給量の約1割を取り扱っており、高いシェア率で適正な灯油価格をリードする役割を果たしています。県内どこでも同じ価格で配達するのも生協灯油の特長です。

配達灯油登録数 **3万9,069人** (前年比99%)

年度末還元 総額 **2,280万円**



明治18年(1885年)建築

▶ 140年の歴史を今に伝える南昌荘

盛岡市にある明治の邸宅・庭園、南昌荘は、いわて生協が保有・管理しており、2000年から一般公開しています。建物は盛岡市の景観重要建造物、庭園は盛岡市の保護庭園、国の登録記念物に指定されています。地元や県内外の観光客が多く足を運び親しまれています。

入園者数 **3万3,325人** (前年比114%)



第2章

持続可能な生産と消費のために

環境と生産者を守ることにつながる商品の
利用拡大、廃棄物の削減に取り組んでいます。



エシカル消費の取り組み コープ商品

「だれかの笑顔につながる」商品

▶ コープ商品

全国の生協でつくるコープ商品は、「環境や社会に配慮した商品開発」「日本の農畜水産業応援」「包装資源の環境配慮」「寄付金付き商品」といった取り組みを推進し、エシカル消費の拡大に取り組んでいます。



エシカル消費対象商品供給高(いわて生協分) **24億2千万円** (前年比118%)

▶ コープサステナブルシリーズ

サステナブルな原料を使用した商品には多様な認証マークがつけられています。コープ商品はそういった環境や社会に配慮した主原料を使った商品に「コープサステナブル」の共通ロゴマークをつけてシリーズ化しました。



▶ もったいないをおいしく

コープ商品は食品ロス削減につながる商品の開発に取り組んでいます。生鮮用の「規格に沿わなかったバナナ」「豆乳を絞った後のおから」「芋製造工程で発生するかけらの芋けんぴ」「梅酒を漬けたあとの梅」などのもったいない原料をおいしくいかす商品を開発しています。



▶ 回収ペットボトルをパッケージ原料に

プラスチック使用量を削減しようと、容器包装に再生プラスチックを使用する商品を拡大しています。生協で回収されたペットボトルをコープ商品のパッケージ原料にリサイクルする取り組みが2019年からスタート。いわて生協も2022年からこの取り組みに参加しています。



エシカル消費の取り組み アイコープ商品

地産地消をめざすオリジナルブランド

▶ アイコープ商品

いわて生協が開発・供給している、オリジナルブランド商品です。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発しています。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。

124品目を46社と共同開発(県外メーカー含む) 2025年3月現在



1 二戸市
大塚製麺食品 ▶ 南部切いた麩
小松製菓 ▶ 南部せんべい
2 岩手町
肉のふがね ▶ しわ黒豚味付ホルモン鍋用
3 八幡平市
岩手農協チキンフーズ ▶ 産直若鶏つみれ、産直若鶏塩からあげ
昭和食品 ▶ 串なし焼鳥、産直若鶏肉だんご
北館製麺 ▶ 挽きたて半なまそば
樋口せんべい店 ▶ 手造りかりんとう

4 滝沢市
金門商事 ▶ 中華風メンマ
5 雫石町
太子食品 ▶ もやし
6 盛岡市
中野製麺 ▶ 餃子の皮
平安商店 ▶ 県産大豆豆腐、県産大豆手揚げ、しらたき、つきこん
風月堂 ▶ クリスマスケーキ
白石食品 ▶ 食パン、スポンジケーキ、クリスマスケーキ
戸田久 ▶ うどん、生盛岡冷麺、冷やし中華、ゆきちからラーメン、中華そば
吉田銘茶 ▶ お茶
7 矢巾町
岩清水食品工業 ▶ 餃子
8 紫波町
浅沼養鶏場 ▶ さくら卵の温泉たまご
いわちく ▶ ウィンナー、焼豚、バラベーコン、味付豚ホルモンうめじゃ〜、とんかつ、国産豚ロースみそ漬け、ミニメンチカツ、焼ハンバーグ、冷凍味付け生ホルモン、ゴトウさくらの焼つくね
9 花巻市
佐々長醸造 ▶ 県産みそ、つゆ、超特選県産大豆醤油、すき焼のたれ、だし入り県産みそ、岩手県産大豆の減塩みそ
JAいわて花巻 ▶ 県産椎茸どんこ
JAグリーンサービス花巻 ▶ いわての五穀
エーデルワイン ▶ Kanau (赤・白)

オリオンペーカリー ▶ 雑穀ブレッド、カステラ、ちぎりパン、クリスマスケーキ
岩手中央食品 ▶ 豚バラなんこつ煮込み
10 西和賀町
YUDA ミルク ▶ 牛乳、ヨーグルト、のむヨーグルト
11 北上市
斎藤食品 ▶ 角こんにやく
12 金ケ崎町
パワー・ブレン ▶ 鮭フレーク
13 奥州市
小山製麺 ▶ 県産小麦粉、乾麺、すいとん粉
14 平泉町
千葉恵製菓 ▶ のし餅
15 一関市
平間製菓所 ▶ つぶあん、こしあん
八木澤商店 ▶ 焼肉のたれ
鈴清食品 ▶ にがり充填とうふ、油揚げ
大林製菓 ▶ のし餅
上山製紙 ▶ リサイクルトイレットロール
16 宮古市
田老町漁協 ▶ カットわかめ、根昆布入りとろろ、だし昆布
古須賀商店 ▶ 味付茎わかめ、わかめの佃煮
17 釜石市
アジテック ▶ 発芽玄米ひとめぼれ
小島製菓 ▶ 味付ねりくるみ、味付ねりごま

▶ 賞味期限を見直す取り組み

フードロス削減の観点から、アイコープ商品の賞味期限の見直しをすすめています。

安全係数の設定変更での見直しに加え、製造メーカーにご協力いただき、包材の変更、製造環境の一部見直し、仕様変更などで賞味期限の延長を実現しています。

賞味期限を見直したアイコープ商品 **4品目**



エシカル消費の取り組み 産直

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農林水畜産物を求める組合員と、農畜水産業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい生産物を作りながら岩手の食料と農畜水産業を守っていく運動です。



産地提携 **24産地**
供給高 **24億8千万円**
(前年比99%)

県内24産地と産直提携 2025年3月現在



① 県北中心に 十文字チキンカンパニー▶若鶏	JA いわて花巻(西和賀) 西和賀農組合▶牛乳
② 岩手町	⑧ 北上市
今松野菜生産組合▶キャベツ・レタス・人参・長芋など	JA いわて花巻(北上)▶たまねぎ JA いわて花巻(北上)▶米
③ 滝沢市	⑨ 金ケ崎町
牧野林産直会▶各種野菜・果物	JA 岩手ふるさと産直牛乳推進組合▶牛乳
④ 盛岡市	⑩ 奥州市
さくらの里産直会▶各種野菜	JA 岩手ふるさと(水沢)▶米
盛岡甘熟会▶トマト・ミニトマト・ねぎなど	アテルイ産直会▶各種野菜・果物
三本柳ふれあいクラブ▶各種野菜	⑪ 平泉町
盛岡産直センター▶各種野菜・果物	いわい農産研究会▶小松菜・ほうれん草・水菜など
株純情米いわて▶米	⑫ 一関市
⑤ 矢巾町	いわい農産研究会▶小松菜・ほうれん草・水菜など
アイコブ豚生産者の会▶アイコブ豚	⑬ 宮古市
⑥ 紫波町	ドラ西町産直会▶各種野菜・果物
東長岡果樹生産組合▶りんご	田老町漁協▶真崎わかめ
浅沼養鶏場▶さくら卵	⑭ 大船渡市
アイコブ豚生産者の会▶アイコブ豚	JA おおふなと▶キウイフルーツ
しわ黒豚生産者の会▶しわ黒豚	
⑦ 西和賀町	
JA いわて花巻(西和賀)▶アスパラ	

▶ 組合員、職員が生産者と交流

いわて生協の産直は「組合員と生産者が交流できる」ことが最大の特長です。生産者をお招きして話を聞く学習会や、産地を訪れる交流会を各地の組合員が自主的に開催しています。特に親子での産地交流が人気です。

また、職員も産地訪問や学習会を通して産直生産者の思いや産直品のよさを学んでいます。

産直学習・交流会参加人数 **696人**



エシカル消費を広げる

学校・県民への出前講座

▶ エシカル消費学習会

岩手県民生活センターの依頼で、岩手県の事業「エシカル消費学習会」に講師を派遣し、中学校・高校・一般向けの出前講座を行いました。エシカル消費につながる取り組みや商品、認証マークを紹介し、SDGsの目標達成に向けたくらしの中の実践を広げています。

エシカル消費学習会 **3回107人参加**



リサイクル・廃棄物の削減

組合員とともにすすめる

▶ リサイクル活動

いわて生協が誕生した1990年、「限りある資源を大切に、私たちにできることを」という組合員の声から、牛乳パックのリサイクル回収をスタート。現在は13品目を組合員から回収し、リサイクルしています。特にトレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし、店舗・宅配で呼びかけています。

リサイクル回収量 **6,041トン**
回収率 トレイ**61%** 紙パック**136%** 卵パック**219%**



家庭の古紙をリサイクル

▶ 古紙・ダンボール回収を拡大

家庭の新聞紙や雑誌、ダンボールを直接回収する古紙回収機「エコチェン」を、リサイクル業者の協力を得て店舗に設置しています。古紙回収1kgごとに、店舗や宅配で利用できるクーポンポイント1ポイントが付与されます。組合員の要望を受けて、設置店を拡大。回収量も年々増えています。

エコチェン設置店舗 **9店舗**(前年+1店舗)



削減目標を持って取り組む

▶ 事業における資材の使用量と食品ロスを削減

事業で使用するプラスチック製容器と紙、また事業で発生する食品ロスの削減をすすめています。

店舗事業では、各店・部門ごとに削減目標を設定し、プラスチック使用量や食品廃棄の抑制に取り組んでいます。このことが評価され、「エコ協力店いわて優良事例表彰」を受賞しました。

容器包装プラスチック容器削減量 2018年度比**21%**削減

食品廃棄削減量 2018年度比**74%**削減



▶ 宅配カタログをトイレトペーパー原料に

「毎週届く宅配チラシがもったいない」という声を受けて、1996年から宅配チラシの回収をスタート。1998年にはこのチラシを原料の一部に使用した「アイコブわたたちのリサイクルトイレトロール」が誕生しました。リサイクルの輪がつながる商品として長年利用され続けています。



第3章

地球温暖化対策の推進

持続可能な地球を子どもたちに残すために
地球温暖化防止の取り組みをすすめています。



CO₂排出量削減の取り組み

高い削減目標を維持

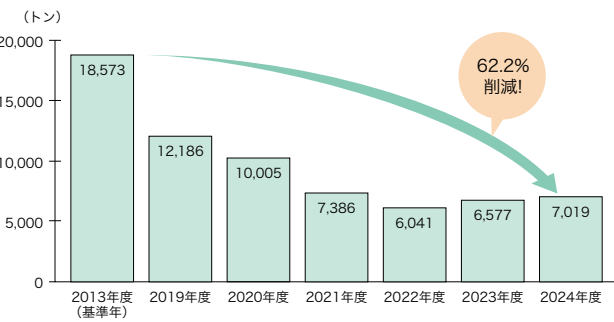
▶ CO₂排出量削減の取り組み

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、環境活動に取り組んでいます。CO₂排出量は、今後事業を拡大する中でも国や岩手県を上回る削減目標を達成していくことをめざし、再生可能エネルギーの導入推進、省エネ型施設・設備への更新、節電の取り組みをすすめています。

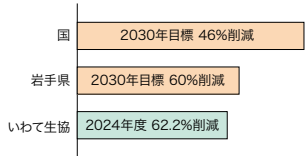
いわて生協の店舗や宅配センター、セリオホールなど27の事業所に太陽光発電を設置しています。店舗ではモニターを設置し発電状況を来店する組合員にも伝えています。



CO₂排出削減 基準年(2013年)比 **62.2%削減**



国や岩手県の2030年目標を上回る
CO₂排出量削減を実現



▶ CO₂排出量ゼロ電力を導入

当生協のCO₂排出量削減を大きくすすめているのが、電力調達の取り組みです。

風力やバイオマス、地熱、水力など岩手県や東北の再生可能エネルギー由来電力の調達をすすめました。特にCO₂排出量ゼロの電力調達を重点にしており、45事業所のうち39事業所でCO₂排出量ゼロの電力を使用しています。



原発に依存しない事業とくらし

再生エネ由来電力の拡大をめざす

▶ 再エネ100宣言RE Actionに参加

企業が事業活動において使用する電力を100%再生可能エネルギーで賄うことをめざす国際的な取り組みです。岩手県内でこの取り組みに参加する小売業は、いわて生協が初めてです。

いわて生協では2030年に事業で使用する電力を100%再生可能エネルギー化することをめざします。

使用電力に対する再エネ比率 **55%** (2024年度)



再エネ100%の電気を供給

▶ コープのでんき「COCOENE」

事業だけでなく、組合員のくらしにも環境にもやさしく、原発に依存しない取り組みを広げるため、再生可能エネルギー比率100%の電気の小売り事業を行っています。コープのでんき「COCOENE」には、東北各地の風力発電やバイオマス発電、水力発電など、地産地消のFIT電気が含まれています。

保有件数 **6,889件** (2024年度)



岩手の森を未来につなぐ

▶ コープの森づくり

岩手の豊かな森林を守り育てることをめざして、県内2か所でコープの森づくりを行っています。葛巻町の「くずまきの森」(2010年開始)ではカラマツ、奥州市前沢の「まえさわ生母の森」(2014年開始)ではブナの森づくりをすすめています。この活動はリサイクル収益の一部や組合員募金、企業様の協賛金で取り組んでいます。

植樹本数 **くずまきの森 2万800本**
まえさわ生母の森 245本



第4章

すべての人に健康と福祉を

高齢の方を中心に健康的な暮らしを応援する事業、人と人がつながる活動に取り組んでいます。



夕食宅配サービス

栄養バランスのとれた食生活を

▶ 夕食宅配サービス

カロリーや塩分に配慮したお弁当を週5回お届けする「夕食宅配サービス」。専属栄養士による日替わりの多彩なメニューで、栄養バランスのとれた食生活を応援しています。

事業開始から11年がたち、高齢の利用者から「介護食を扱ってほしい」との要望が寄せられていました。この声に応えて、「やわらか食」コースをスタート。噛む力、飲み込む力が低下した方にも、食べる楽しみをお届けします。



夕食宅配 1日食数 **3,621食** (前年比103%)

夕食宅配弁当ラインナップ



おかずコース



まん福コース



お弁当コース

福祉事業

住み慣れた地域でくらすお手伝い

▶ 福祉事業

福祉事業は、介護認定を受けた方が住み慣れた自宅・地域でくらし続けられるよう、在宅介護事業(ケアプラン・訪問介護・福祉用具レンタル)と小規模多機能型居宅介護事業を行っています。宅配や住まいのサービスなどの生協の事業、「コープくらしの助け合いの会」などの組合員活動とも連携しながら、利用者のくらしをサポートしています。



在宅介護事業利用人数 **5,225人** (前年比87%)

小規模多機能型居宅介護利用人数 **のべ252人** (前年比102%)

組合員の地域でのささえあい活動

組合員同士の助け合い活動

▶ コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員同士で助け合う有償ボランティア組織です。1992年に発足し、ご高齢の方や子育て中の方などを対象に、家事や生活の援助を行っています。支援する人、支援を受ける人、いずれもいわて生協の組合員で、助け合いの会の会員になる必要があります。

会員数 **1,476人** (前年比98%)

活動時間 **1万8,848時間** (前年比92%)



いっしょに作って食べる

▶ 料理サロン

▶ 作って食べる会

高齢者の孤食のリスクを軽減しようと、参加者がいっしょに料理を作って食べる活動に取り組んでいます。

宮古・釜石・けせん地域では、社会福祉協議会と協力して、「料理サロン」を災害公営住宅で実施。盛岡と八幡平では2024年度から「作って食べる会」を定期開催しています。

料理サロン・作って食べる会 **34回496人参加**



シニア層の元気づくり・居場所づくり

▶ 大人企画

▶ コープカフェ

シニア層の元気づくり・健康づくりを目的に、組合員が22会場で「大人企画」を定期的に開催しています。体操や手芸など、多彩なテーマが好評です。

居場所づくりの活動「コープカフェ」は、予約不要・ふらりと立ち寄れる場として17会場で開催しています。

大人企画・コープカフェ **3,576人参加** (前年比116%)



第5章

貧困をなくし子どもたちを支援する活動

生活困窮者や支援を必要とする家庭をサポートする団体の支援に取り組んでいます。



生活困窮者を地域で支える

▶ フードドライブ

一般的には家庭の未利用食品を寄付する活動をフードドライブと呼びますが、いわて生協では支援先の要望に沿った食品を購入・寄付いただくスタイルで取り組んでいます。

店舗・宅配でそれぞれ年2回協力を呼びかけ、前年の4倍近い寄付が集まりました。物価高騰により個人や他団体からの寄付が減少する中、社会福祉協議会や子ども食堂に多くの食品を寄贈することができました。

フードドライブ **2万8,075点** (前年比390%) **43団体**に寄贈



子どもたちの食を支える

▶ 子ども食堂支援

組合員からの「ささえあい募金」を活用し、子ども食堂の物品購入費用の割引支援、イベントで使うお菓子の支援などを行っています。割引支援は、生協以外で購入した商品にも対象を広げ活用が広がっています。

店舗事業では、取り扱いが終了した正月の鏡餅を、子ども食堂に寄付する取り組みを2024年度初めて行いました。

ささえあい募金 **366万1,218円** (前年比93%)

子ども食堂支援 **22団体139万円** (前年比125%)



世界の子どもたちを支援

▶ ユニセフ募金

世界の子どもたちの命と健康を守るユニセフ募金に年間を通して取り組んでいます。紛争や災害など、子どもたちの命と安全が脅かされる事態には、ユニセフからの要請に応じて緊急募金も行います。この間もウクライナやパレスチナ・ガザ地区の人道危機に対し、子どもたちの安全と平和を願い緊急募金に取り組んできました。

ユニセフ募金 **384万7,558円** (前年比56%)



第6章

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動

「平和とよりよき生活のために」という理念のもと取り組んでいます。



平和を考え、学習する

▶ ピースアクション

いわて生協は「くらしの基本は平和があつてこそ」との思いから平和運動に取り組んでいます。

日本生協連と開催地の生協連が開催する「ピースアクションinヒロシマ」「ピースアクションinオキナワ」に、組合員を毎年派遣しています。戦跡や碑めぐり、被爆や戦争の証言などを通して感じたこと、学んだことを組合員活動情報誌で参加報告し、平和への思いを広げています。



毎年8月9日に開催

▶ 平和のつどい

平和を願う気持ちを新たに「平和のつどい」を、毎年8月9日に有志の組合員が開催しています。高松の池にある平和祈念像「望み」に集まり、像の清掃や長崎原爆投下時刻に黙とうを行い、世界の紛争の終結と平和を願う気持ちを現しています。

平和祈念像「望み」

1995年、平和の願いを形にして語り継ごうと県内11団体が一緒に取り組み、いわて生協を中心に2万人を超える県民の募金で建立しました。監修は岩手出身の彫刻家、故・舟越保武氏。弟子の増山俊春氏が制作しました。



岩手での戦争の記憶を後世につなぐ

▶ 組合員の戦争体験を伝える

岩手での戦争体験を聞き取り、知らせる取り組みを行っています。2023年に組合員理事のご家族に「釜石艦砲射撃」の経験をお話いただき、動画で紹介しました。それ以降、組合員の戦争体験を募集し、組合員活動情報誌でお知らせしています。「岩手で空襲があったことを知らなかった」「とても貴重な話」との感想が寄せられています。



多様な人々がともに働き続けられる 組織づくり

多様な人材が活躍する元気な組織づくりを
すすめています



職員の子育てをサポート

▶ 男性職員の育休取得推進

子育てをしながら働き続けられる職場づくりをすすめています。

両親で育児を行う意識の高まりに合わせて、男性職員の育児休業取得、特に産後パパ育休を対象者全員が取得することをめざし、制度の周知や対象者への取得推進などに取り組んでいます。対象者10名中8名が取得し、これまでで最も多くなりました。取得日数も平均56.5日と増えています。

産後パパ育休取得率 **80%** (前年+36%)



障がいを持った人もともに働く

▶ 障がい者雇用の推進

多様な職員がともに働き続けられる職場をめざし、障がいを持った人の雇用にも積極的に取り組んでいます。また、特別支援学校生徒の職場実習・体験も受け入れています。働いている人には定期面談やアンケートを行い、長く働き続けられるよう改善にも取り組んでいます。

店舗で働く職員が、優秀勤労障害者として高齢・障害・求職者雇用支援機構より表彰されました。

障がい者雇用 **60人** 雇用率**3.4%** (前年+1人、+0.1%)



若手職員の経済的負担を軽減

▶ 奨学金返還支援制度

2025年度から、卒業10年以内の正規職員・エリア正規職員を対象に、奨学金返還支援制度を新たにスタートしました。日本学生支援機構から借りている奨学金が対象で、職員の代わりに生協が毎月1万～1万5千円、最大180万円を日本学生支援機構に直接返還します。

奨学金返還支援制度利用 **19人** (2025年度)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



いわて生協は2030年ビジョンの実現を通してSDGs達成に貢献します

いわて生協 SDGs レポート

～2024年度の取り組み～